



国際交流活動2013年

国際展開担当理事 横田 篤

去る9月18日(水)～20日(金)に、広島国際会議場で開催された日本生物工学会第65回大会における国際交流関連行事について報告する。

■**生物工学アジア若手賞** 本年度は第10回目となり、今年は中国の若手女性研究者 Yue-Qin Tang (湯岳琴) 博士(四川大学・教授)に対して授与された。対象となった研究題目は、Microbial community in methane fermentation process (メタン発酵プロセスに關与する微生物叢)である。同氏は熊本大学の木田建次教授の研究室で2005年に博士号を取得後、2005年～2008年まで熊本大学で助教(木田研究室)を務め、2008年に帰国後、北京大学教授を経て、2011年から四川大学教授として教育・研究に邁進している。この間、2010年にはJBB論文賞も受賞している。同氏の今後益々のご発展を期待したい。

■**生物工学アジア若手研究奨励賞(The DaSilva Award)** 本賞は微生物に關連するバイオテクノロジーの分野で、近い将来に顕著な研究業績をあげる事が期待される35才迄のアジアの若手研究者に対して授与される。昨年度新設された賞で、第2回目は中国の男性研究者 Sen Qiao博士(Dalian University of Technology, 大連理工大学環境科学工學院・副教授)に授与された。対象となった研究題目はEffects of electric stimulation on the activity of anammox biomass (電気刺激がアナモックス菌の活性に及ぼす影響)である。同氏は、大連理工大学からの国費留学生として、熊本大学の古川憲治教授(現同大学名誉教授)の研究室で研鑽を積み、2007年に博士号を取得後、同大学勤務を経て、若くして母校の副教授に採用された。同氏の今後のご活躍に期待したい。

■**韓国生物工学会(Korean Society for Biotechnology and Bioengineering, KSBB)との人物交流** 日本生物工学会とKSBBとは、2005年に改正された学術交流協定(五十嵐泰夫会長当時)に基づき、双方の年次大会において数名の招待講演を実施することで相互交流を続けている。今大会では4題の招待講演が、大会2日目～3日目にかけて通常セッションの中でポスター発表の形で行われた。招待講演者はByung-Gee Kim教授(Seoul大学、次期会長・JBB編集委員)、Dong-Myung Kim教授(Chungnam大学、国際担当理事、2008年度生物工学アジア若手賞受賞者)、Seung Pil Pack准教授(Korea大学)、Soonjo Kwon助教(Inha大学)であった。SBJからは、去る10月17日～18日に釜山市にて開催されたKSBBの秋季大会に園元会長および五味副会長が参加し、祝辞を述べた。また、来年2014年4月9日～11日に慶州市で開催される予定のKSBB春季大会へ、本年度の各賞受賞者のうち、高木昌宏先生(生物工学功績賞、北陸先端科学技術大学院大)、菊地淳先生(斎藤賞、理化学研究所)、福田淳二先生(照井賞、横浜国立大)を派遣する。

■**KSBB-SBJ交流会議** 大会2日目の19日午後、上記4名のKSBB関係者にSeung Wook Kim教授(Korea大学、KSBB会長)を加えた5名が出席のもと交流会議が開かれ、今後の交流方針その他について意見交換が行われた。本会からは、園元会長、五味副会長、倉橋副会長(産学連携)、跡見(国際展開)、今井(産学連携)、北本(国際展開)、大政(企画・HP)、高木(英文誌編集)、松井(産学連携)、筆者、の各業務担当理事、事務局より伊藤が出席した。終始、今後の交流をより活性化させる方策について、昨年度の本会議からの継続議題として突っ込んだ話し合いがもたれた。議事の要点は次の通りであった。まず上述のように、今年度からSBJの若手受賞者の訪韓時期をKSBB秋季大会から翌年の春季大会に変更し、それぞれのトピックにあったセッションで講演することで、より学術的な交流を可能にすることで合意した。一方、KSBB秋季大会の今後の取り扱いについては、今年は上述のように園元会長の挨拶にとどめるが、来年度からは講演も含める予定で合意した。KSBB側からは、秋季大会は産業界からの参加者が多いとの話が出され、それを受けて園元会長が、来年度は産業界を代表して倉橋副会長に出席していただくことを提案し、了承された。また、新設するSBJシンポジウムの内容や準備状況などについて質疑があり、来年5月22日に本シンポジウムを東京で開催すること、シンポジウムの課題が決まり次第、それに合った講演者をKSBBから派遣してもらうことで双方が合意した。このように、今回の交流会議では、これまでの年次大会ごとの招待講演を続けながら、さらに交流の機会を増やして、年2回に倍増する計画が合意され、両学会の交流を大きく進展させることができた。双方とも充実した雰囲気の中で写真撮影の後、散会となった(写真)。

■**その他** 今大会では初日の午後、受賞講演の中でKSBBを代表してKim会長によるご挨拶があったが、聴衆が少なく、これは午前中の授賞式の中に設定すべきであった。今後の留意点として共有したい。Kim教授は同日夕刻の懇親会で鏡割に参加された。また、大会2日目の夕刻には広島市内でKSBB参加者の歓迎会が開催され、韓国側も大変喜んでおられたことを記す。

